

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201086		
法人名	NPO法人 ライフサポート永楽台		
事業所名	グループホーム そよ風SUN		
所在地	千葉県柏市永楽台3-4-2		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>民家改築型家族的24時間オープンなグループホーム</p>
---------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街の中にある「グループホームそよ風SUN」は民家改修型の施設であり、周りの環境に溶け込み、入居者にとっても馴染みある雰囲気の流れとなっている。今年度は、自動通報機及び火災報知機の設置を行うと共に、防災カーテン・絨毯や漏電防止ブレーカーへの切り替えを行い、火災・災害対策を講じている。法人理事長等が地域住民であり、日頃から地域住民との挨拶・交流を通じて、良好な関係を築いている。運営推進会議には、多くの地域住民の参加を得ており、防災関連を議題に挙げ、地域と御連携強化に取り組んでいる。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年3月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は機会がある事に話をしながら共有する様にし、実践する様にしております	「家庭的な環境」「安心と尊厳」「健康な暮らし」等を主眼とした理念を掲げている。理念は玄関に掲示していると共に、職員の入職時に理念を配布しており、理念の周知・共有に努めている。その他にも運営推進会議で、施設の方針や理念を説明しており、地域への周知も図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、町内の行事には積極的に参加する様にしております	日頃から地域住民とあいさつを交わしていると共に、訪問等も随時受け付けており、密な関係を築いている。また、自治会に加入しており、地域行事への参加等を通じて、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会に加入し、行事に参加しながら活かす様にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行いながら情報を提供し、意見を聞く様にしております	運営推進会議には、地域包括支援センター職員その他、地域住民を代表として、市議会議員・町会役員・民生委員・婦人の会役員・商店会役員等が参加しており、今年度は2回、開催している。会議では、施設活動報告・意見交換・防災対策の検討等を行っており、施設理解促進や地域との関係強化に繋げている。	今年度は、年2回、運営推進会議を開催したが、今後は、市の定めた回数を定例開催する事により、更なる施設の理解促進及び地域との連携強化に取り組んで頂くことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各施設は直接市役所へ、全体的なことはグループホーム連絡会を作り、市役所と連携出来る様にしております	日頃から市に対して、業務における相談や報告等を行い、連携を図っている。また、市のグループホーム連絡会に参加しており、地域の他施設や市役所職員と意見・情報交換を行う機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最近柏も物騒に成りつつありますので、夕方になりますと玄関は施錠する様にしてありますが、窓その他は開けたままにし、拘束をしないようにしております	身体拘束排除及び虐待防止におけるマニュアルの整備を図っており、職員へ意義を周知している。日中は玄関の施錠を行っていないと共に、鈴やセンサー等を活用し、入居者の安全を確保した上で、自由な生活を支援している。	現在、施設では身体拘束の必要性はないが、マニュアルの読み合わせや研修の実施もしくは参加を通じて、定期的に職員に対する意義の共有・支援方法の確認等を行い、サービスの質の向上・統一に向けて取り組んで頂く事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や休憩の時間にお互い話をしながら防止するように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まず人間一人一人の権利がどうあるべきかを考え、介護されている人が安心し、自立できるのか、その為にどう後見人制度を生かしていくのか等と話し合っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される時に十分説明し、理解し、納得が得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問された時に入居者の近況をお知らせする時等にいろいろな話をしながら意見などを聞いて反映させるようにしております	家族の訪問時・電話連絡時に家族からの意見や要望を確認している。また、家族に対して、毎月お便りを発行・送付し、日々の様子や活動状況を理解してもらう工夫をしている。挙がった意見・要望においては、申し送りや連絡ノートを活用し、周知の上、適切な対応を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時々仕事の終わった後に雑談や話し合いをしながら意見や提案を聞きながら運営に反映する様にしております	管理者や理事長が職員との雑談の中で意見や思い等を確認していると共に、連絡ノートを活用しながら、職員間での意見・情報交換を行っている。法人理事長・管理者・職員が密にコミュニケーションを取り、意見を言いやすい関係作りがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雑誌を見たりしながら自分で行ってみたい研修等を探して参加し、知識・力量を付けてもらうようにしております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会を作り交流・研修会を開催し質の向上を図るようにしております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者が早く安心した信頼関係を築けるように担当者を決めて対応するようにしております		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に問診を通していろいろと聞いておりますのでそれを生かしながら信頼関係を築くようにしております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にいろいろな話の中で聞いている困っている事・不安な事等を協力を得ながら解決出来る様にしております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なぜ施設に入居することにしたのかを聞き、それらを考慮した対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も参加してもらい、料理・掃除・洗濯等をする事によって生活を共にする関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のいま間までの生活についていろいろと聞いておりますので、今までの生活が出来る様に家族と相談・協力して支えていくようにしております		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらに慣れてもらう為に出かけるよりもこちらに来てもらう様にして、車でその方の家まで一緒に迎えに行き遊びに来てもらう様にしております	家族との外出や友人の訪問等は随時受け付けていると共に、手紙のやり取りなども支援しながら馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。また、地域のお祭りへの参加・ボランティアの来訪等を通じて、馴染みの風習や外部との交流が楽しみとなるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で一緒に何かをやり、終わったらお茶を飲みながら話をしたりしながら仲間意識を持ってもらう様にしております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遊びに行ったり、来てもらったり行事を通して関係が続く様にしております		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面接・問診の時に希望・意向等を聞いておりますので、どう生かしていくかは安心して、生活していただけるようになったらケアプランに反映していく	入居時の面談にて、入居者の意向・身体状況・生活歴等を確認している。また、常に連絡ノートで入居者の状況を情報交換し、職員への周知・共有を図っている。その他にも、看護サマリーや個別の記録を作成し、意向や現状に即した支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接時に問診としていろいろと聞いた事を書面にして保存しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の起床時の状態、血圧、体温等を見ながらひとりひとりの一日の過ごし方を考えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	いろいろと聞いた入居時の生活ををなるべく取り入れて行く様にケアプランを作成し、モニタリングし、次回に生かして行く様にしている	家族の意向を確認し、職員間で情報交換をした上で、介護計画を作成している。担当者会議には、訪問看護師や家族が参加しており、意向や身体状況等に合わせた介護計画の作成に取り組んでいる。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の新たに気が付いた点を記録出来る様にし、ケアプランに生かして行く様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者がここでの生活を楽しみ、安心して生活をしていただくために時々のいろいろなニーズに答えられる様に情報を取り入れ、実践出来るようにしております		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事などに参加しながら楽しく暮らせるようにしております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一週間に一回かかりつけ医に訪問医療を受けられるようにしております	内科医の往診やかかりつけ医への受診を行っており、適切な医療受診を支援している。定期的に訪問看護を実施し、適切な健康管理を行うと共に、訪問リハビリやマッサージボランティア等を活用し、入居者の身体機能の維持・向上に努めている。急変時・搬送時に備え、看護サマリーや受診記録をまとめてあり、円滑な連携が取れるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に二回看護師の訪問によって入居者の健康をチェックする様にしております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医、看護師などの紹介によって医療関係者との関係を作り連携しやすいようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安心したターミナルケアが出来る様にその都度、家族と相談しながらかかりつけ医、訪問医師、訪問看護師と連携を図りながら取り組んでいる	入居時に終末期・重度化における施設方針を説明していると共に、延命処置の希望同意書を交わしている。往診医の協力を得て、必要時に迅速な対応が取れるよう連携を図っている他、訪問看護師・医師・家族と相談しながら、意向に沿った終末期を支援できるよう協力体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年二回訓練をして、実践力を付けられるようにしておりますが		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を消防署団員立会いの下、又近隣にも声をかけながらやっておりますが	オール電化の施設となっており、自動通報機・火災報知機等の消防設備を設置していると共に、今年度、消防署の指導のもと、防災のカーテン・絨毯や漏電防止ブレーカーの設置を実施している。年2回の避難訓練を計画しており、災害時・緊急時における対応方法を確認している。	避難訓練における記録を適切に作成・保管する事により、反省点や次回に向けた訓練内容の検討等に繋げて頂く事を望みます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が今までの生活を通して磨いてきた品性を尊重し、傷つけない様な介護をする様にしております	プライバシー保護におけるマニュアルの整備を行っていると共に、同性介助の実施等、入居者のプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人の意向に沿う様な生活が出来る様にしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の今までの生活のリズムを取り戻し、生活出来るように支援する介護を心掛けております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に持ってきました物の中が本人の好み、意向に沿う様にしております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを聞いて、買い物に行ったり、作ったりしながら食事を楽しめる様にし、終わったいっしょに話しながら洗い、拭いてもらう様にしております	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立は、入居者の希望や季節に配慮して、職員が作成していると共に、外食・行事食を実施し、食に対する楽しみを支援している。また、漆器・陶器・お弁当箱等を活用し、季節や場面に合わせた盛り付けをする他、プランター菜園の活用等、楽しい食卓作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分、運動不足、便秘が認知症の症状の出る原因と言われておりますので不足にならない様に、食事による便秘解決を心掛けております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、おやつ後、就寝前等自分で出来る様に洗面所に誘導しながら口腔ケアをしております		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを見て、トイレへ誘導したり、交換したりしております オムツ外し学会があるようですのでそこへ入会して、オムツが外せるようになればと・・・	入居者一人ひとりの排泄状況を記録しており、排泄パターンや状況に応じて、声掛け・トイレ誘導を行っており、排泄の自立に向けた支援に努めている。また、夜間においては、鈴やセンサーを活用し、適切な支援が行えるよう工夫している。必要に応じて、医師や看護師に相談をして、適切な排便コントロールを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今流行っております麹菌を毎日食事を作る時にいろいろなものに入れながら薬を使わずに出来る様に取り組んでおります		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応は週二回と決めておりますがその他自由にいつでも入れる様にしております	入居者の希望に応じて、時間や回数を調整しながら、入浴機会を確保していると共に、部分浴・清拭・シャワー浴等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	総てを自由にしておりますが、その人の今までの生活のリズムに合わせる様にしております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には特に注意を払っております 誤って他の人のを飲ませない様に、又入院時には薬の見直しもする様にしております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日常の中で役割、楽しみを見つけ、それが出来るように支援しております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出の中に一日と十五日は神社詣りと食事会と決め、従業員、家族等の情報を参考に外かける所を決めております	日頃から散歩や買物等、外出機会を設けていると共に、定期的に外出会を企画しており、戸外での楽しみを支援している。月々の行事は職員・入居者間で話し合いながら決めており、希望に合わせた外出支援に取り組んでいる。また、施設のベランダやプランター等を活用し、気軽に外の空気を楽しめる工夫もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物のときには自分の者は自分で払う様にしております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月の年賀状、又時々家族に電話をしてもらう様に言って、話をしてもらう、終わった後は家族の話で盛り上がる様にしております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に何処へでも行けるようにしてあり、その時々のお花を植えながらのんびりとおだやかに生活が出来る様に工夫しております	民家改修型の施設は、温かみある木造の建物で、共有スペースには、椅子・テーブルが設置されており、入居者が自由にくつろげる空間作りがなされている。ベランダは日当たりが良く、お茶飲みや日光浴の場となっていると共に、季節の植物やプランター等が設置されており、食の楽しみや季節を感じられる様工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が話したり、時には一人になれる様に見守りながら工夫しております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の中で使用していた物を持ってきてもらい、今までと変わらない居心地の良い空間にする様にしております	入居者・家族の希望に応じて、家具等の馴染みの物を持ち込む事が可能となっていると共に、布団を敷く事やポータブルトイレの使用も可能となっており、生活歴や身体状況に合わせた居室作りがなされている。必要に応じて、鈴やセンサーを活用しながら、入居者の安全面に配慮した工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に気を付けて、自由に動き回れる生活が出来様にしております		